

## 第35回 二十五三昧会

檀信徒以外の方も、曹洞宗以外の方も、初めての方も、お気軽にご参加ください。

神代尚芳先生の祥月命日供養 & 上農哲朗先生の  
「ちゅーと半端な在宅でもいいじゃないですか」  
というお話。

5月22日(日)

本堂にて  
参加自由です!

①法要と勉強会 14時～16時 ②交流会 16時～18時

住職：平田の私事ですが、平成19年ごろ義理の母の様子がおかしくなってきた。そのころ、在宅での看取りの話を読んだり聞いたりしていたので、義母を在宅で看取るまで行きたいとケアマネや上農先生に宣言する。その後、実家の母がガンになり、それが原因で、週3日の透析が必要な状態になる。義父もガンになる。平成21年秋ごろから、同時多発遠距離介護が始まってしまふ。義母の認知症がひどくなり、振り回されるようになる。実家の母も時々トラブルをおこし入院する。やがて疲れが出てきて、上農先生が平成23年8月に老健を勧めくださるので、義母を入所させる。在宅で看取るといふ目標はあつけなく頓挫する。その後、義母は老健から病院へ入院、転院、そして有料老人ホームに入所。義母にとって最も安定した生活が始まる。その間、実母のアルツハイマーが進み頻りに田舎へ帰らなければならなくなる。義父も見守りが必要であり、時には入院。夫婦共働きの我が家ではやはり在宅は無理。平成26年秋、義母老人ホームにて逝去。実母は義母がいた部屋に入所。義父の認知症少しずつ進んでくる。平成27年秋、義父の肺ガン大きくなり呼吸器が必要となる。気難しい義父をヘルパーさんや訪問看護師さんなどの助けを得ながら見ていくが12月24日限界を感じ上農先生に相談。即、入院の手配をしていただき、3週間後遷化。その時同時に実母、骨折で入院。現在、残された実母一人に専念できるが、その後2度入院、現在も入院中。夕食の食事介護にだけはほぼ毎日通い、状態を見ている。主治医からはもう退院できないから老人ホームを退所するように言われているが、諦めきれない。これが我が家の介護状況だ。もし、三人をすべて在宅で見えていたらどうなっていたらう。今、身体も心もガタガタ。仕事との両立はかなり難しい。家族に介護力がないと、かなり大変。特に、うちのように同時多発になるとお手上げ。外で介護してもらおうとなると、お金はもちろん必要だが、あまりかからないように研究しておく、あるいはそういう事に詳しい医師やケアマネさんをつかんでおく必要がある。上農医師は在宅訪問の専門医なのに何が何でも在宅で看取るといふ選択はなさらない。家族の様子をよく見て、判断される。そういう逃げ道があるとずいぶん気が楽だ。そのあたりを上農先生からうかがいます。

二十五三昧会(にじゅうござんまいえ)とは、お寺が中心となり「メンバーの誰かがヘルプを願い出たら、みんなで出来る範囲のお手伝いをしよう」など、ゆるやかな人的交流の互助的な共同体です。入会に制限はありません、詳しくはお寺までお問い合わせください。(平日10時～16時)

会員  
募集中

お問い合わせ—観瀧山 岡本寺 (こうほんじ) TEL.072-793-0203